

ひきちかみぎり

引地上切C遺跡

所在地 豊田市下山田代町引地上切地内

(北緯 35 度 1 分 15 秒

東経 137 度 18 分 30 秒)

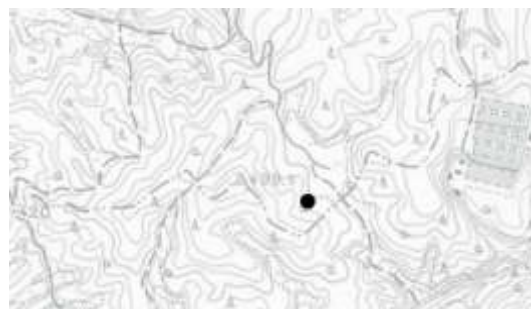
調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業

調査期間 平成 26 年 10 月～平成 27 年 2 月

調査面積 1,700 m²

担当者 成瀬友弘・鐸木厚太・尾崎弘子

調査経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて実施した。当該地域については、平成 19、20 年度に愛知県教育委員会の分布調査により遺物散布地であることを確認しており、平成 23 年 10 月から 12 月実施の範囲確認調査では、最奥部に設置したトレンチの黄褐色土層から、ピット、溝、土坑等の遺構を検出した。



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)

立地と環境 本遺跡は、保久川支流の上流域、下山田代町引地上切地内に所在する。北東には、オンボ A 遺跡、オンボ B 遺跡、オンボ C 遺跡の 3 遺跡が隣接する。調査地点は、大小の尾根と谷が入り組む中、引地上切 A 遺跡、引地上切 B 遺跡、引地上切 C 遺跡の 3 遺跡が連なり、引地上切 C 遺跡はその最も南に位置する。遺跡の標高は海拔 450m 前後で、調査時の現況は山林 (杉林) であった。

調査の概要 調査は黒色土を検出面とする 1 面と黄褐色土を検出面とする 2 面について実施した。

1 面では、主に中世の遺構を検出し、それに伴う多くの遺物を確認した。

南西の張出部分には、L 字型に形成された溝 (041SD、131SD) の他、焼土と炭化物を有する、時期を異にする複数の土坑 (新しい順に 031SK、065SX、076SX) を検出した。これらは整地された区域にあり、土坑群は溝よりも古くから存在していたことが切り合い関係から分かった。また、041SD は、131SD を付け替えたもので、屈曲部を配石 (063SS) により補強した痕跡があることを確認した。なお、3 基の土坑 (032SX、065SX、076SX) の下面からは複数のピットと土坑 (160SX)、焼土坑 (068SX、163SX) を検出した。

遺物としては、溝の内部及び岸で被熱痕のある石が複数出土した。周辺からは、鉄滓、研石と思われる擦痕のある片麻岩が出土したほか、遺構内部及び周囲で山茶碗片が多数出土した。これらの中では、039SK からは山茶碗が 3 個体重ねられた状態で出土した。また、023SK から山茶碗小皿が完形の状態で出土したのが特徴的である。

南部では、床面が焼土化した土坑 (081SK、082SK、133SK) を検出した。この辺りには湧水があり、近くで石組み井戸 (066SE)、石敷 (067SX) 及び溝 (083SD) を検出した。066SE は、中世の遺構面よりも一層上で検出しており、同じ層位で土坑状の炭焼窯 8 基を確認しているが、時期の特定はできていない。また、断割り調査により、近隣の花崗岩 (一部の石に被熱痕がある) を円形に配置し、深さ 1.2m 程度まで積み重ねて造成したことが確認できたほか、石組みの下からは手掘りの井戸を検出した。

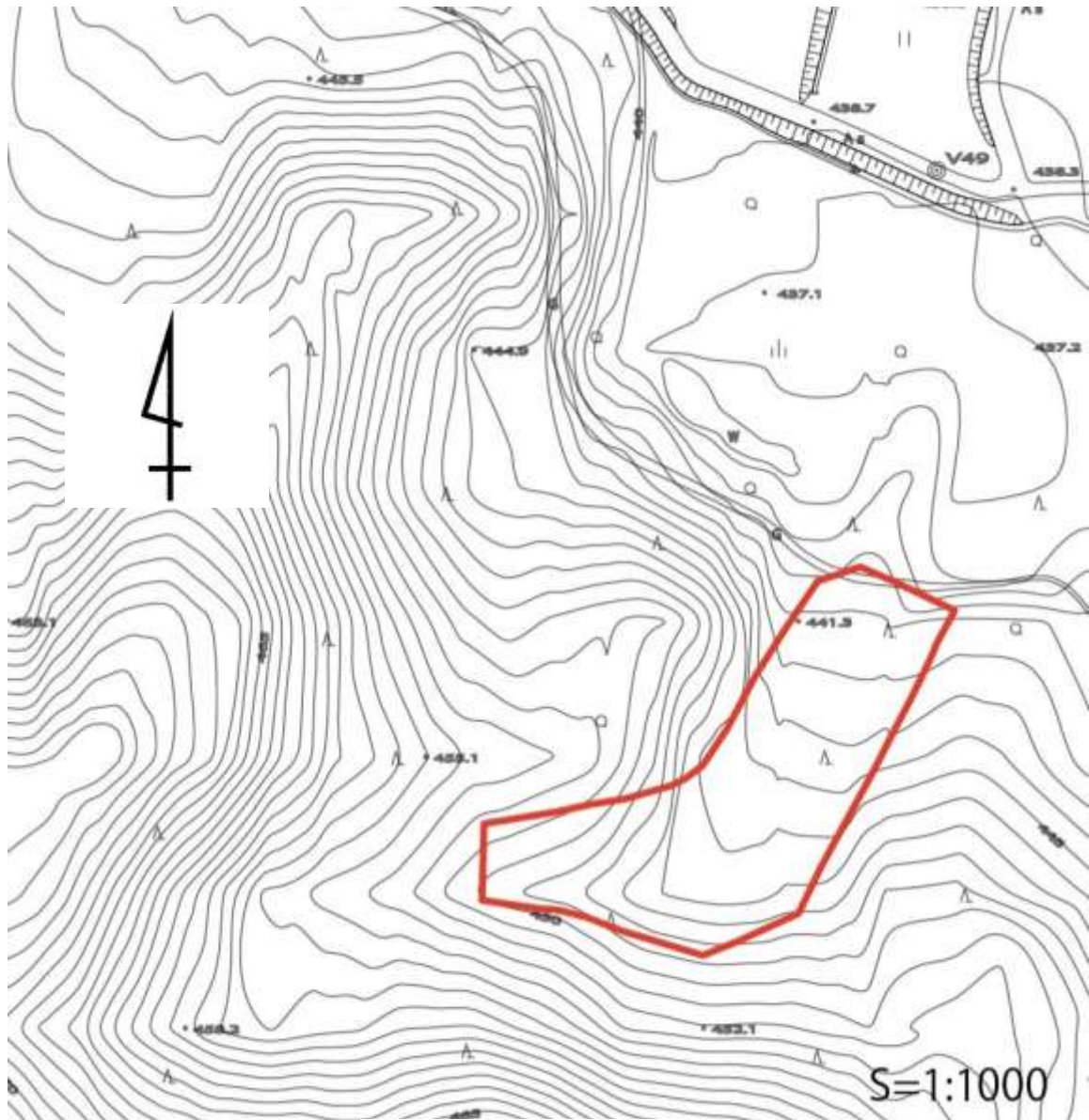
遺物としては、遺構及びその周囲で、山茶碗や伊勢型鍋等が出土した。

なお、オリーブ褐色シルトの包含層からは、鉄製品、山茶碗、皿、常滑の甕が出土したほか、井戸の周りで青磁碗等が出土した。

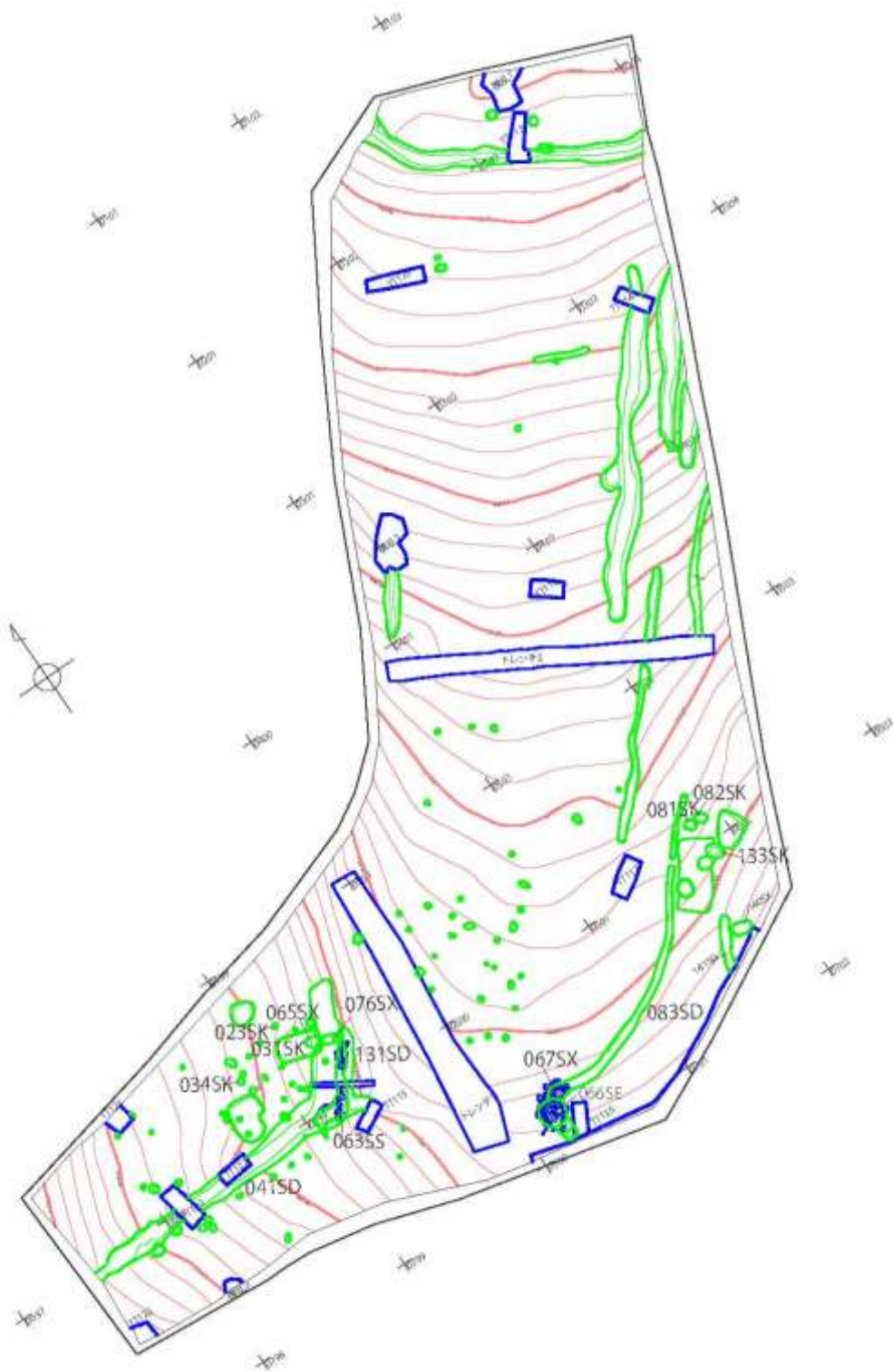
2面では、黄褐色土を古代の検出面と考えて精査したところ、自然流路に近い溝を複数検出し、主にその周囲から灰釉陶器片、土師器片等が出土した。これらの遺物は、平安時代中期に比定されることから、この時期の人々の活動の痕跡と考えられる。しかし、溝以外には、若干の焼土痕が見られたものの、明確な遺構は検出されなかった。

調査区北側には、2間×3間の掘立柱建物（100SB）を検出した。南東隅のピットから山茶碗（尾張型6型式）が出土していることから、13世紀前半の遺構であると思われる。

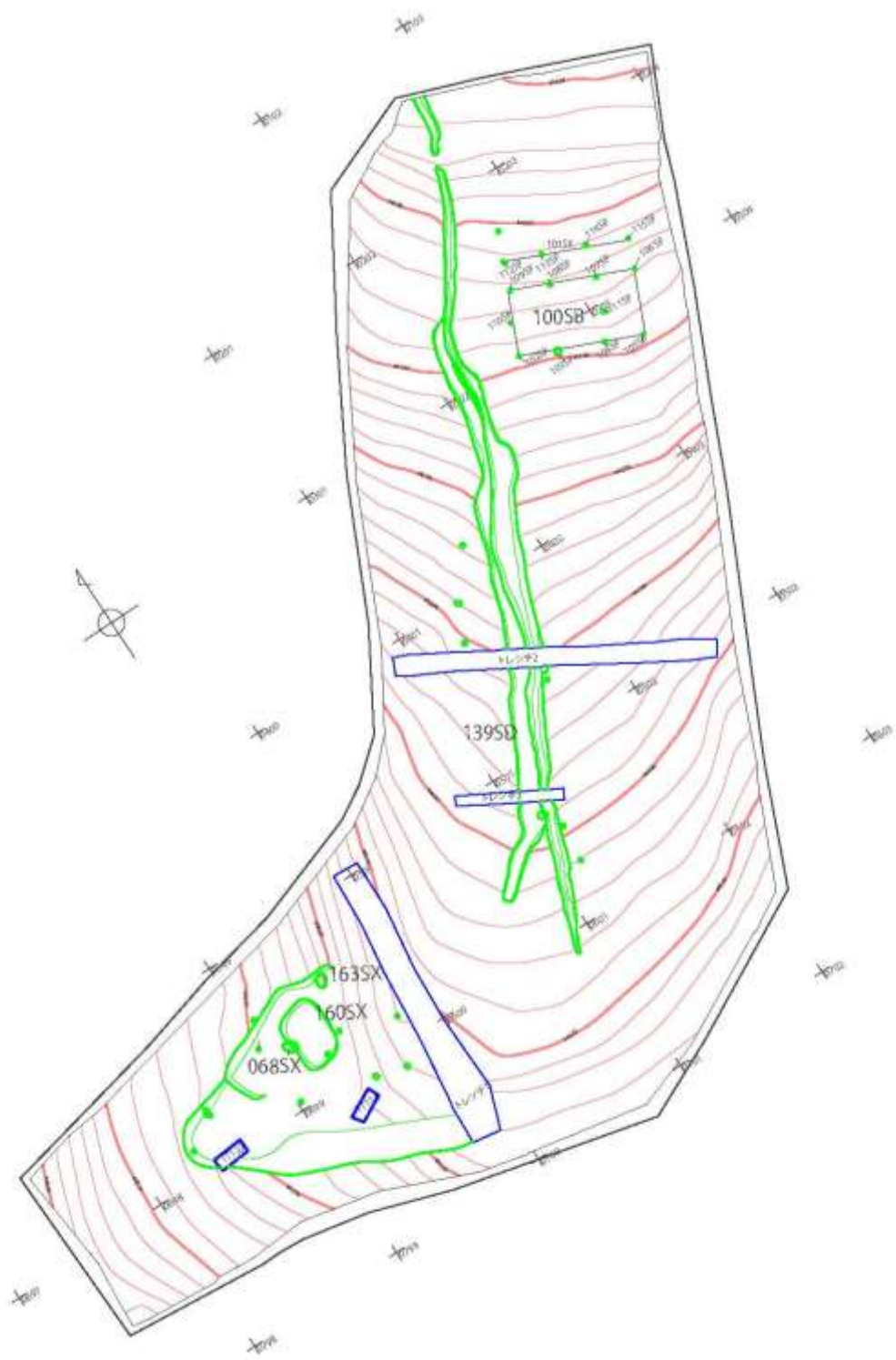
ま と め 本遺跡は、北向きの斜面でありながら、古代から近世の各時代を通して人々の活動の痕跡を確認することができた点で、大きな成果を上げることができた。（尾崎弘子）



引地上切 C 遺跡調査区位置



引地上切C遺跡遺構図 1面 S=1:400



引地上切C遺跡遺構図 2面 S=1:400



遺跡遠景（南から）



遺跡全景（第2面空撮写真）



1面南西部分発掘状況（北から）



1面遺物（山茶碗・031SK 南西のピット）



包含層遺物（青磁碗破片）



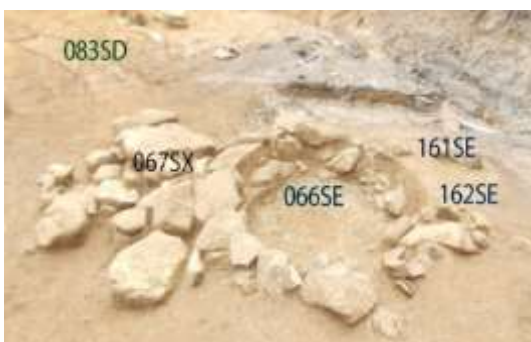
包含層遺物（刀子）



2面 100SB、101SB、138SD、139SD
完掘状況（北から）



2面遺物（左・灰釉陶器、右・土師器）



066SE、067SX ほか発掘状況（南西から）



066SE 断割り（南から）